

1月16日 マルコによる福音書1章14~20節 今日の説教から
説教題：「最初の弟子たちシモンとアンデレ」

イエス様の活動は、洗礼を受けたのちのガリラヤでの伝道活動によって始まりました。洗礼者ヨハネが集まった人々に対して罪の悔い改めを促したように、イエス様も人々に対して神の国の接近と悔い改めを語っています。さらに、今日の箇所では「福音を信じなさい」とも語っています。イエス様が直接ガリラヤ地方の人々に対して福音を語り、「私の言葉を信じなさい」「悔い改めて神様のことを信じなさい」と語っていたようです。

今日の16節以降では、具体的に最初の弟子たちがイエス様に招かれる様子が記されています。ガリラヤ湖を通りかかった時、そこではシモンとアンデレが網を打って漁をしていて、ヤコブとヨハネは網の手入れをしていました。一般的に、私たちはこの4人を指して「イエス様の最初の弟子たち」と理解していると思います。マタイによる福音書では4章で、ルカによる福音書では5章にこの出来事が記されています。細かな違いはありますが、基本的に「シモンとアンデレがまず弟子になった」「ヤコブとヨハネがそれに続いて弟子になった」ことは確かなようです。

彼らがまずイエス様の弟子になり、続いて弟子たちが増えていく様子が福音書には記されているのですが、このようにイエス様が声をかけた人すべてがイエス様の弟子になることが出来たわけではありませんでした。律法を守ることこそ神様が喜ぶことだと考えたユダヤ人たちは、イエス様の新しい教えを受け入れることが出来ませんでしたし、安息日よりも優先するべき神様への愛を知らなかった彼らにとって、安息日や律法を何よりも優先しようとはしていなかったイエス様は「律法を守らない罪人」としか考えられませんでした。今日の箇所でも、14~15節で「ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、『時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい』と言われた」と書いており、すでにガリラヤでの宣教活動を始めています。しかし、最初の弟子たちはその後にガリラヤ湖で出会ったペトロとアンデレだったのです。つまり、最初にガリラヤで福音を聞いた人々は、だれもイエス様の弟子にはなることが出来ませんでした。

私たちもかつて、神様に出会い、悔い改めに導かれ、洗礼を受けて教会と一員となりました。イエス様を頭として、その教会の一員として用いられる者として変えられました。今までの生き方は神様が喜ぶものではなかった、これからは神様に従って、イエス様の言葉に従って生きよう、と信仰を告白したと思います。その時、私たちはたしかに生きるために手にしていた網を、それぞれ放り出してイエス様の言葉に従ったのです。いま思うと、私たちはどうしてそんな大それたことが出来たのでしょうか。ペトロが投げ捨てた網は、彼が先祖から受け継いだ大事な漁師の道具です。今までそれによって生活をすることが出来ていた、自分の持つ何よりも大切にしていた網も船も投げ出して、彼らはイエス様に従う道を歩みだしました。私たちも、これまで信じていた多くのものを捨てて、価値のないものであると切り捨てて、いま信仰の道を歩んでいるのです。ここに、イエス様の招きの果てしない「強さ」を感じることが出来るのです。

御言葉の力強さによって、私たちのすべての業は支えられているのです。その喜びを胸に、今週一週間の、これから歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：マルコによる福音書 1章 14～20節

- 14:ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。
- 16:イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。二人はすぐに網を捨てて従つた。また、少し進んで、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、すぐに彼らをお呼びになった。この二人も父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後について行った。

フィリピの信徒への手紙 3章 5～9節

- 5：わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。しかし、わたしにとって有利であったこれらのこと、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他的一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。